

介護テクノロジーの活用 ～しなふくでのICT導入実績～

社会福祉法人 品川総合福祉センター
かもめ園 三日月・本多・鈴木
品川区立八潮南特別養護老人ホーム 中島・佐藤

介護テクノロジーの活用

～しなぷくでのICT導入実績～

発表施設：かもめ園

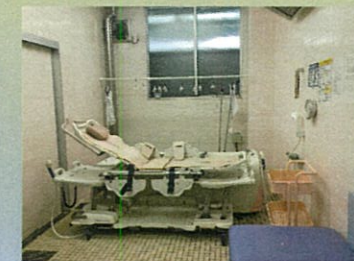
発表者：三日月、本多、鈴木

かもめ園について



品川区八潮5-1-1 品川総合福祉センター

- 障害者支援施設
- 身体部門（入所48床・SS2床）3階
- 知的部門（入所52床・SS3床）1～2階
- 浴室 地下1階



発表内容

- ICT導入の経緯
- 使用機器について
- ICT導入後運用実績（かもめ園身体）
- ICT導入後運用実績（かもめ園知的）
- 今後の展望

ICT導入の経緯

●入所者の重度高齢化に対するアプローチ

急変時の早急な対応

健康状態を数値で可視化

蓄積データによる健康状態の把握

●利用者把握

上記データの可視化による長期的変化の推移の把握

限られた職員の目の補助

さかのぼっての現場検証

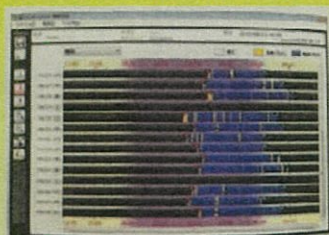
●職員負担の軽減

情報伝達のための手間や時間を短縮

使用機器について

●眠りスキャン

健康状態を数値で可視化
蓄積データによる健康状態の把握
急変時の早急な対応
データの可視化による長期的変化の推移



●眠りスキャンアイ

映像をさかのぼっての事実確認・事故検証
限られた職員の目の補助

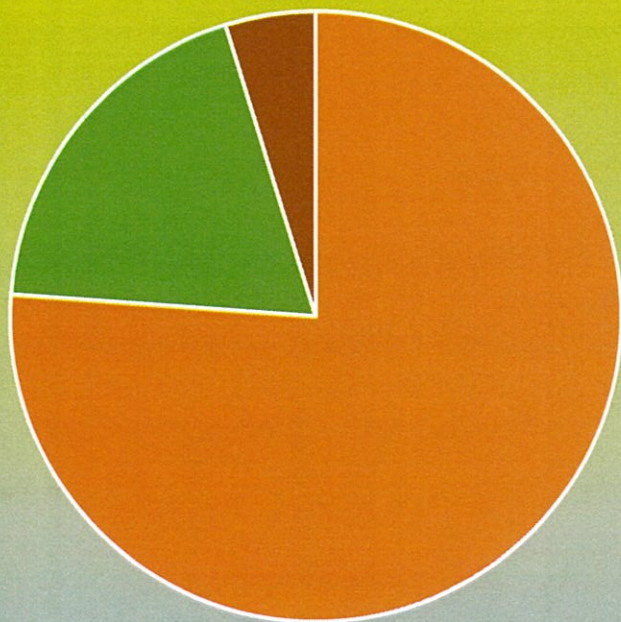
●インカム・iPhone/iPad

情報伝達のための手数や時間短縮
リアルタイムでの情報確認・情報入力



ICT導入後運用実績 (かもめ園身体)

負担軽減したか(眠りスキャン/アイ)

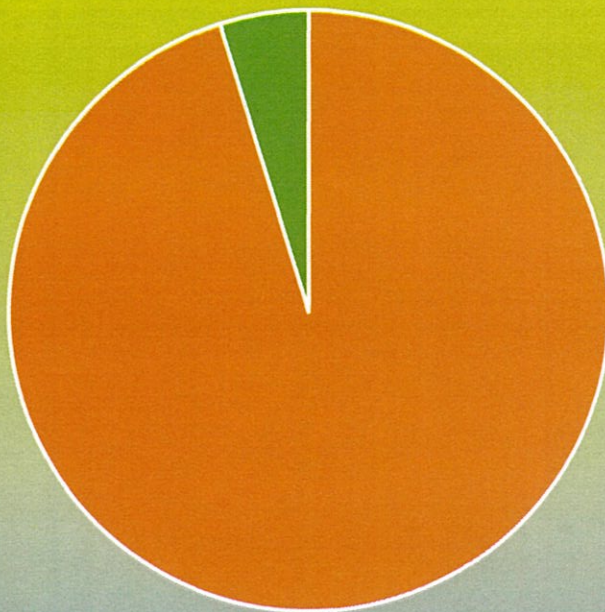


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない ■ 回答なし

- ・心拍低下がすぐにわかる
- ・その場に行かずとも利用者の動きを逐一確認できる
- ・離床がリアルタイムでわかる
- ・アラート設定ができるため助かる
- ・特変があった場合に通常時とのデータのよる比較ができる
- ・事故発生後の現場検証ができる

ICT導入後運用実績 (かもめ園身体)

負担軽減したか(インカム)

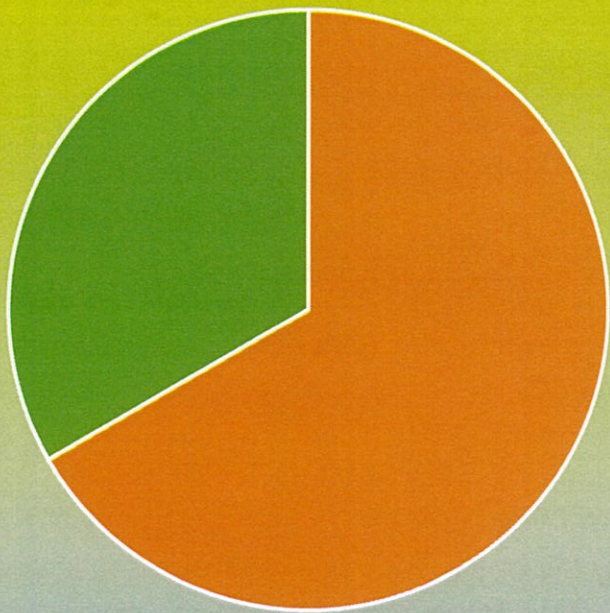


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない ■ 回答なし

- ・ すぐにヘルプを求められて安心
- ・ 人を探すことが減った
- ・ 何かをしながら会話ができる
- ・ 一斉連絡／情報共有ができる
- ・ 他の職員が何をしているのかわかる
- ・ 入浴時の誘導がスムーズになった

ICT導入後運用実績 (かもめ園身体)

負担軽減したか(iPhone/iPad)

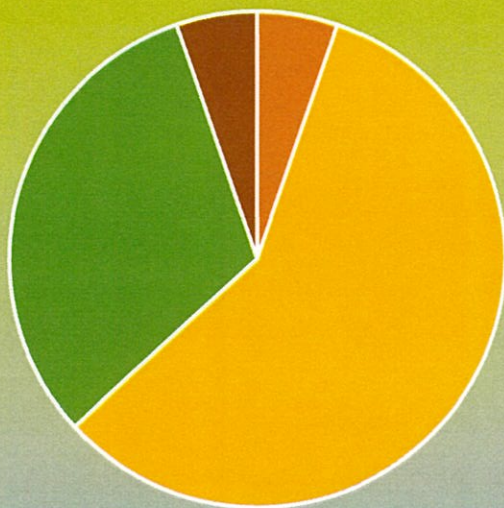


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない ■ 回答なし

- ・ 音楽再生、各種アプリの活用
- ・ パソコンが空いていなくても
できることが増えた
- ・ SSの荷物の記録時間短縮と忘れ物
防止に役立っている
- ・ 夜勤時動きながらモニターが
確認できる
- ・ 持ち運べる
- ・ 食堂でも記録が打てる

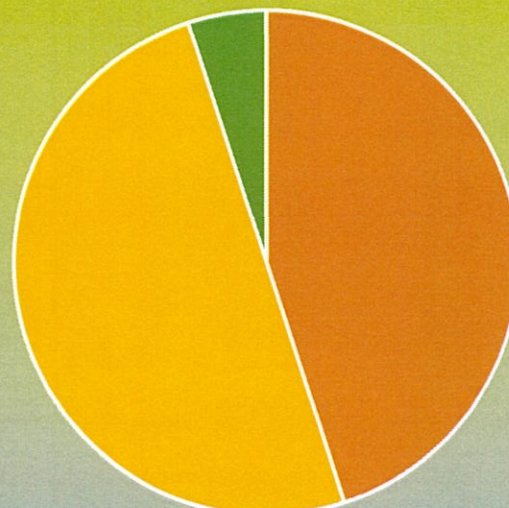
ICT導入後運用実績 (かもめ園身体)

使いこなせているか
(眠りスキャン/アイ)



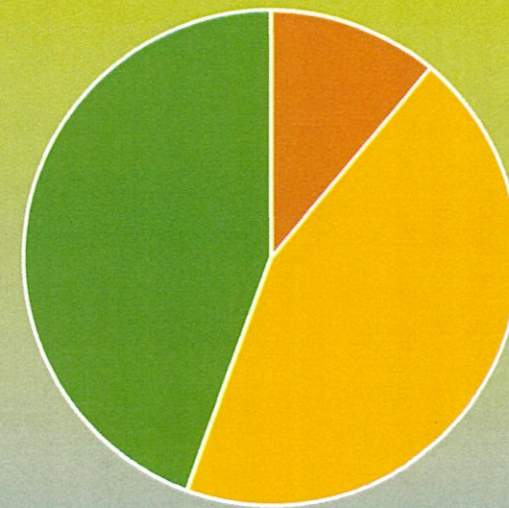
100% 70% 50% 30% 10%

使いこなせているか
(インカム)



100% 70% 50% 30% 10%

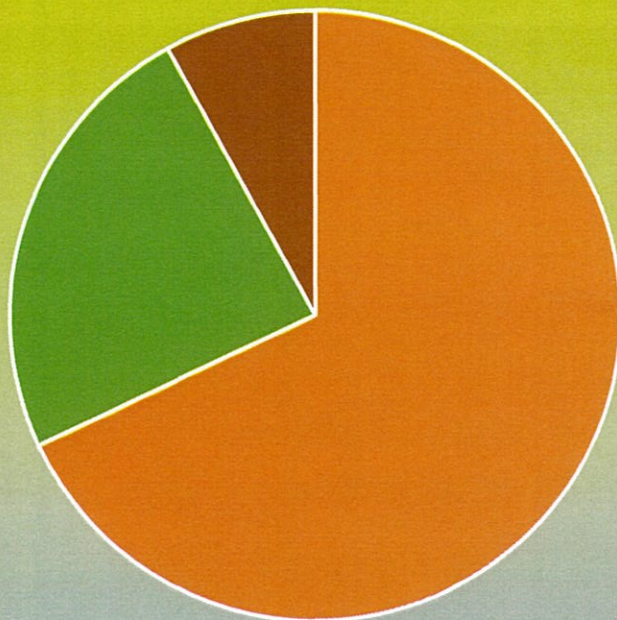
使いこなせているか
(iPhone/iPad)



100% 70% 50% 30% 10%

ICT導入後運用実績 (かもめ園知的)

負担軽減したか(眠りスキャン/アイ)

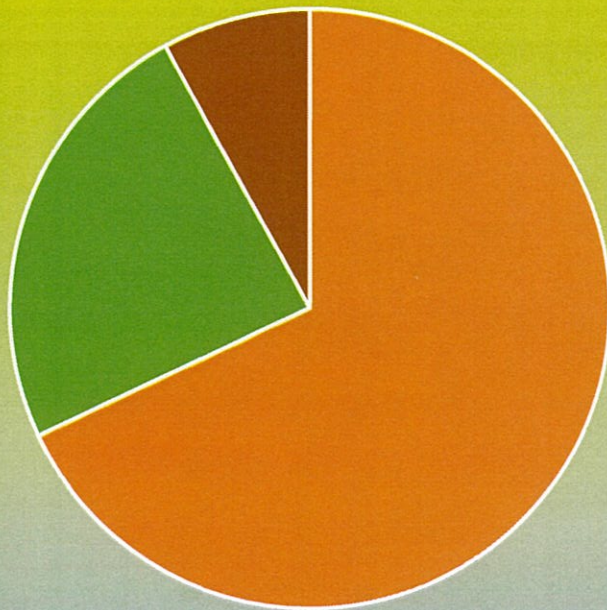


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない ■ 回答なし ■

- ・ 体調管理/安全確保がしやすくなった
- ・ 一つの画面で全員が確認できてよい
- ・ 探し物の搜索にも使えた
- ・ 心理的負担の軽減効果が大きい
- ・ 業務負担軽減にまではなっていないが、サービスの質は向上できた
- ・ 臥床位置によっては目視確認が必要
- ・ 利用者への過剰対応になってしまったケースもある
- ・ プライバシーの配慮に懸念がある

ICT導入後運用実績 (かもめ園知的)

負担軽減したか(インカム)

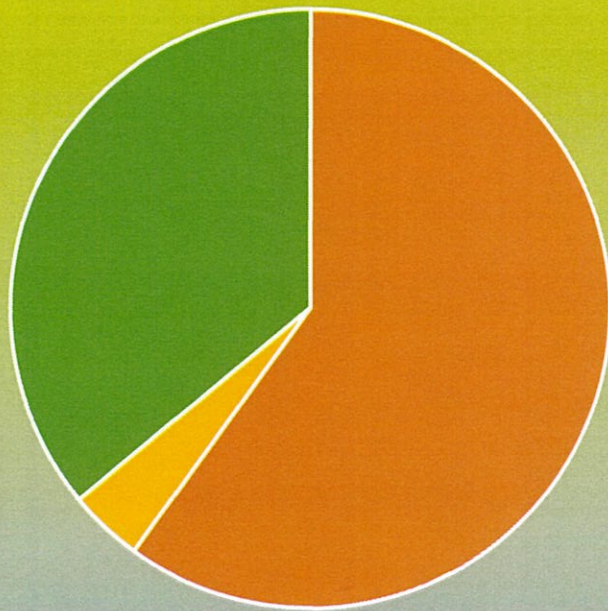


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない ■ 回答なし

- ・ 職員を探す時間が劇的に減った
- ・ 一斉に情報発信ができる
- ・ 対応を続けながらヘルプや申し送りができ、受けることもでき、連携が取りやすくなった
- ・ 階違いでもその場で連絡ができ連携できる
- ・ 入浴日、処置の依頼がタイムリー
- ・ 機械による音量の大小や不具合が気になる
- ・ 使用していない人もいるため何ともいえない
- ・ 電話にいかなくて済むが使いこなせていない
- ・ 直接肌につくため衛生面で難あり
- ・ 常時の装着だと頭や耳周りが痛むのが難点

ICT導入後運用実績 (かもめ園知的)

負担軽減したか(iPhone/iPad)

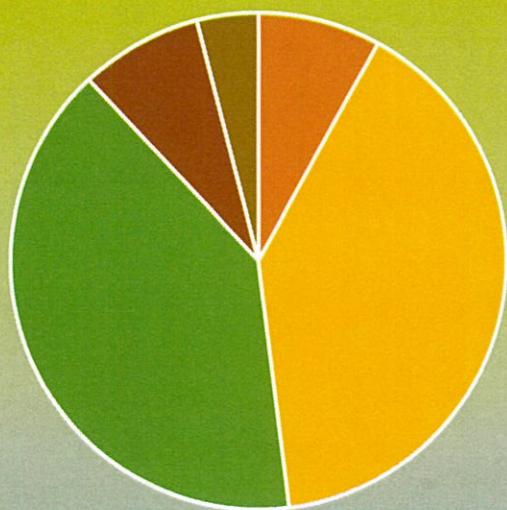


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない ■ 回答なし

- ・ 移動しながら記録が打てるため保安がしやすくなった
- ・ データ入力や状況把握がタイムリーにできるようになった
- ・ 食事量や体重が一画面で一斉に入力できるのは便利
- ・ 同期忘れに注意
- ・ もっと台数が欲しい
- ・ i-phoneで見聞録が打ち込めるようになるとよい

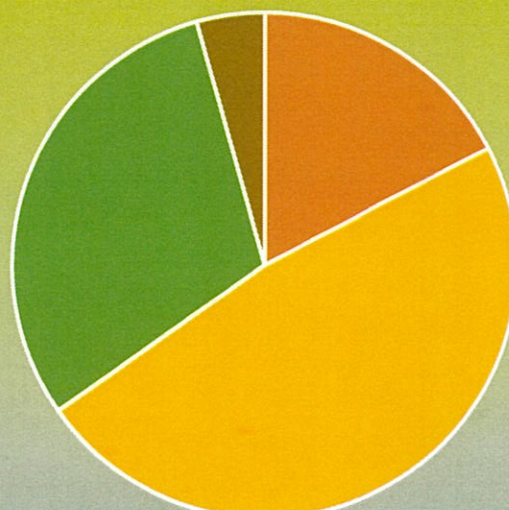
ICT導入後運用実績 (かもめ園知的)

使いこなせているか
(眠りスキャン/アイ)



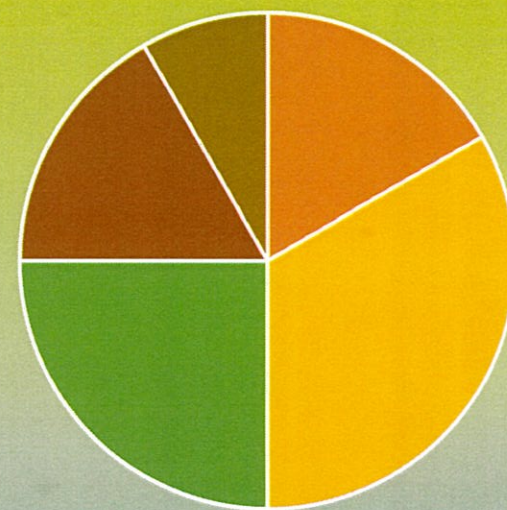
100% 70% 50% 30% 10%

使いこなせているか
(インカム)



100% 70% 50% 30% 10%

使いこなせているか
(iPhone/iPad)



100% 70% 50% 30% 10%

今後の課題・展望

- 導入したものの我関せずの人が多い現状
- スマホの活用を進めたい
- 端末での見聞力入力も活用していきたい
- 接続／同期ができていない場合の対応
- 先輩職員の申し送りを聞くことができ、自然な職員教育にもつながる期待



よりよいかもめ園のために



介護テクノロジーの活用 ～しなふくでのICT導入実績～



品川区立八潮南特別養護老人ホーム

施設概要: 特養89名 短期入所11名 5つのフロアに分かれている。

発表者・中島 佐藤

◆ 実際に使用しているICT機器 運用開始(令和4年 4月～)

①記録システム「ほのぼの」

NDソフトウェアほのぼのは、iPhone等が使えるのはもちろん、音声入力も介護現場で使う言葉に特化しており、帳票の編集で現在使用している形にカスタマイズできることも良かった。

また、iPad等で通院時に利用者のデータ閲覧や病院での記録をその場で入力ができる。

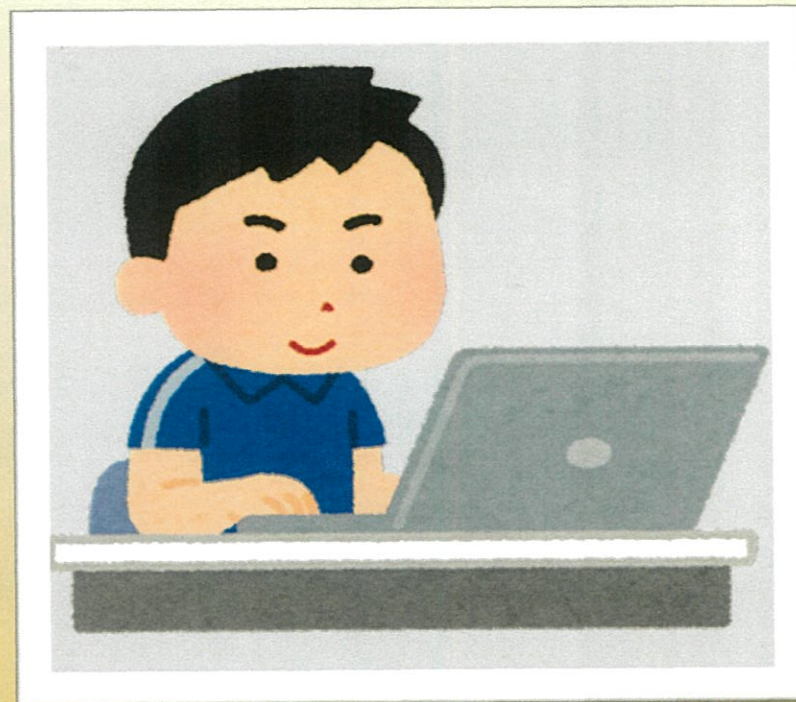
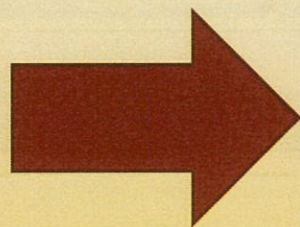
②見守りシステム「眠リスキャン」

パラマウントベット眠リスキャンは、生体センサーとしての実績が多くあり、実際にデモで使用したところ、利用者の心拍数、呼吸状況なども見られるため、体調不調の予兆が把握できた。また、看取りの方に使用したところ、心拍が止まる過程が確認でき、医療職が不在でも対応ができることで安心できるものだった。

それ以外に、タイムラグはあるものの、ベットからの起き上がりや離床した場合は、通知システムにより離床センサーとしても活用できる。パラマウントベット眠リスキャンeyeは、利用者の様子を見たいときに見られるカメラで、鮮明度も選択が可能である。

●眠リスクャン 訪室回数の比較検討

今までは、ナースコールや離床センサー作動のたびに訪室して、様子の確認が必要だった。



眠リスクャン導入により、カメラ設置の居室はパソコン上の画面で様子を確認することが可能。(iPhoneも使用可能)
例えば、寝返りだけだった場合は訪室していない。

●実証結果（令和4年）

	①訪室しないで済んだ件数			②センサー・コールの作動数			③訪室せずに済んだ割合（%）①÷②		
	6月	9月	前回比 (6月基準)	6月	9月	前回比 (6月基準)	6月	9月	前回比 (6月基準)
4階（ベット数18）	233	279	+46	1203	1309	+106	18.5%	21.3%	+2.3%
3階（ベット数18）	398	490	+92	621	865	+244	64.1%	56.7%	-7.4%
2階 東棟（ベット数22）	233	196	-37	760	738	-22	30.7%	26.6%	-4.1%
2階 北棟（ベット数23）	174	72	-102	443	449	+6	39.3%	16.0%	-23.3%
1階（特養6+短期12）	325	302	-23	842	1062	+220	38.6%	28.4%	-10.2%
施設全体	1353	1339	-14	3869	4423	+554	35.0%	30.2%	-4.8%

※各フロア利用者のADL及び利用者数により、センサー・コールの作動数はフロアにより変動がある。

※カメラ設置により、訪室せずに済んだ割合は、施設全体で約3割程度（30%～35%）であった。

6月・9月を比較すると、6月基準で4.8%減少しており、数値上では若干数の減少ではあるが（職員負担はわずかに増加）、ほぼ横ばいである。

ICTを活用した生産性向上への取り組み

- ① サービス向上委員会・生産性向上委員会を立ち上げた。毎月30～60分。
- ② まず、職員全体にどのような事で困っているか、どんなムダがあるか、なにを改善していきたいかアンケートを実施。
生産性向上ガイドラインに基づき「気づきシート」の活用も行った。
- ③ 様々な意見があがったが「排泄表」と「引継表」の見直しを行う事になった。

排泄表の見直しについて ①

日付		月	日 ()																																		
名前	便回日数	追加下痢	定時下痢		0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	名前	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	体温①	バイタル	体温②	バイタル	体温	特記		
401					尿																																
	月	日			便																																
	月	日			尿																																
	月	日			便																																
	月	日			尿																																
	月	日			便																																

今までは紙の排泄表に記入し、その後、パソコンの記録システムへ転記していた。

デメリット

- ①紙へ記入しそれをパソコンへ転記する、といった二度手間が発生していた
- ②私達の施設は5フロアあり、それぞれが少しずつ異なる排泄表を使用していた。異動やヘルプで違うフロアに行った時に戸惑う場面があった。
- ③印刷代のムダ

排泄表の見直しについて ②

排泄表の書式を統一する案もでたが、せっかく導入した記録システムを活用して、どうにか出来ないかを検討。

サポートデスクに問い合わせする等を行い、個別に排便警告(便秘何日目であるかの警告)の設定を活用してみる事にした。

利用者の特性に合わせて、排便警告を設定、追加の下剤服用の確認が一目で行えるように設定を行った。

また、基本的には排泄介助を行った後、すぐに記録システムに打ち込んでいる。

スマートフォンからも記録が打てるので、入浴介助等でもタイムリーに記録を行える。

排泄表の見直しについて まとめ

- ①排泄表は廃止 ペーパーレス化の成功
- ②記録システムの入力は都度、PCやスマホで行う

上記対応を施設全体で行い、業務効率化・ペーパーレス化を実現できた。

引継表の見直しについて ①

引継は日誌者⇔夜勤者で1日2回行っており。その際に引継表を使用していた。

・便秘状況 ☐ ・臀部陰部皮膚状況 ☐ ・全体引き継ぎ事項 ☐ ・夕方検温 ☐ ・所在確認表チェック ☐											
月	日 ()	氏名	在籍	名	現在	名	男性 女性	名 名	入院		
		名前	便秘	便処置	日中・夜間の様子				特記事項		
401-a											
401-b											
401-c											
402-a											
402-b											

デメリット

- ①時間がかかる。 10～30分程度(フロアや日によってバラツキがある)
- ②排泄表同様に書式が統一されていない
- ③記録に書いてある内容が引継表にも記載されている事があり、二度手間になっていた
- ④印刷代のムダ 1日2枚×5フロア＝施設で10枚

引継表の見直しについて ②

排泄表同様に書式の統一も案にあったが、記録システムの「申し送り機能」を活用する事で引継表を無くし、ペーパーレス化で進めることになった。

これまでは、記録の中に重要事項が埋まってしまうことと、他職種の職員が、記録を見る際にすぐに重要事項が見れない事が課題となっていた。

申し送り機能は、重要な記録にだけチェックする事で、引継時に確認すべき内容のみを選択できる。

そのため、体調変化や特記事項を一覧として確認することができ、速やかな情報収集を行うことが出来る。

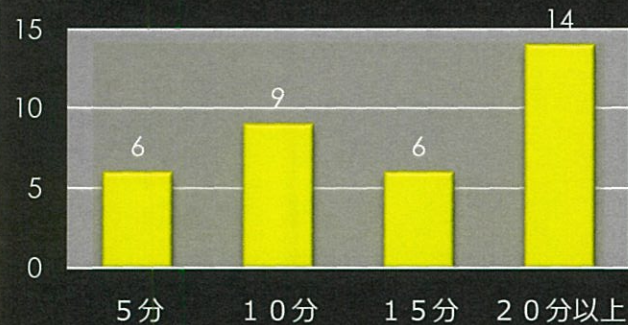
引継表の見直しについて まとめ

「申し送り機能」を活用し引継ぎ表の廃止を行った。その代わりに引継ノートを作成。口頭伝達よりも文字の方が伝達効率が良かったため、対面での口頭引継ぎを最小限にした。

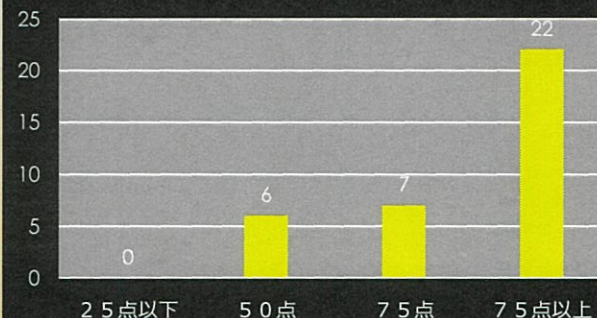
上記対応を行い、情報伝達効率の向上、ペーパーレス化、フロアごとの差異を最小限にとどめる事に成功した。

2つの改善を行った事による成果

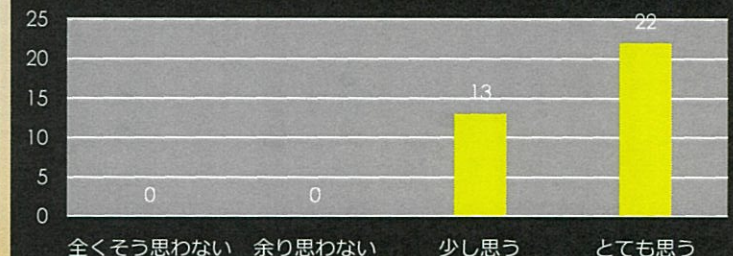
Q1.どのくらい時間短縮したか？



Q2.実施して良かったかどうか？



Q3.今後もICTを活用した
生産性向上を行っていききたいか？



ペーパーレス化による費用軽減額(概算)

15枚×50円＝750円(1日あたり)

750円×30日＝22,500円(1か月あたり)

22,500円×12か月＝270,000円(1年あたり)

まとめ

ICTを活用し生産性向上に取り組み、成果がみられています。
今後もICTを活用してより良いサービスを提供していきます。

ありがとう
ございました

